

# 五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3  
TEL.426-3600 FAX.424-1474



「玉津島より名草山を望む」

玉津島は神亀元年(724)の聖武天皇の行幸によりその名を知られ、山部赤人の歌碑が現在もひっそりと佇んでいる。  
名草山には、その山腹に西国33ヶ所第2番札所の紀三井寺があるが、桜の名所としても知られ、ここを訪れた俳人・歌人も多い。  
見上ぐれば 桜しまふて 紀三井寺 芭蕉

## 目次

年頭所感	2	六十八才の挑戦	4
新年のごあいさつ	2	60才で思うこと	4
雑感	3	年末年始の経営計画	5
年男・年女に当たる会員	3	格闘技に関する思い出	6
		新入会員等ご紹介	8

## 年 頭 所 感

和歌山支部長

勝 田 晃 夫



あけましておめでとうございます。会員の先生方には、ご家族共々、ご健勝で輝かしい2001年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素は、会務運営につきまして、深いご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

支部長の任期も残すところ4ヶ月余りとなり、やれやれという気持ちをいただいております。

さて私達税理士は、申告納税制度のもとで適正納税を実現する使命を課されていますが、税理士法第52条では「税理士でない者は、この法律に別段の定めがある場合を除くほか、税理士業務を行ってはならない」と規定されており、税務書類の作成は、税理士の独占業務として保障されていることに鑑み、経済的理由で税理士に依頼できない納税者、更にはその他の小規模な一般納税者に対する税務に関する税務援助事業の一環として、例年通り地区納税相談が実

施されます。

なお、平成12年度の地区納税相談における近税会としての実施重点目標は次のとおりです。

(1) 税理士制度の必要性を社会的(国民)に認識してもらう。

税の専門家として税務行政を支え、租税倫理を高め、納税道義の高揚に貢献すると共に税務書類の作成は、税理士の独占業務であるという再確認の徹底、そのためには、税務援助事業を積極的に実施しなければならない。

(2) 「自書申告」の啓蒙に伴う納税相談体制の実施、自書申告は自分の責任において適正な申告と納税を行うという申告納税制度の本旨に沿ったものであり、税理士はあくまでも納税者自身が自分で書けるよう口頭で指導することを原則とし、申告書や決算書の控等、税理士自ら代書はしないようにする。

これら実施重点目標は、会員先生方のお一人、お一人のお力添えなくして達成できません。紙面上で誠に失礼かと存じますが、どうかご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、この21世紀の新年が会員先生方の益々のご健勝とご事業の発展の年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

## 新年のごあいさつ

和歌山税務署長

小 田 誠 亮



新年あけましておめでとうございます。

新世紀の幕開けとなる平成十三年の年頭に当たり、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、税務行政の執行に対しまして、深い御理解と多大なる御協力を賜り、お陰を持ちまして署務運営全般にわたりおおむね順調に推移しております。

紙面をお借り致しまして、心から熱くお礼申し上げま

す。

さて、新しい世紀に入りますと、御承知のとおり、1月6日には中央省庁等の改革が実施され、また、4月1日には情報公開法の執行が予定されているなど、行政を取り巻く環境も大きく変わろうとしております。

このことは、行政の透明性・効率性の確保や納税者利便の一層の充実を図り、均一・均質な行政サービスの提供が求められているところであり、我々としまでも的確かつ前向きに取り組んでいきたいと考えております。

ところで、最近の税務行政を取り巻く環境は情報化・国際化の進展に見られるように、経済社会が変化する中で、大きく変わってきております。

他方、国民の皆様様の税に対する関心が高まっており、適正・公平な税務執行が一層求められております。

このような中で、税務当局といたしましては「適正・公平な課税の実現」と「期限内収納の確保」という私どもに課せられた使命の達成を図るため、経済情勢に即応した署務運営に配意するとともに、新しい目で物事を見つめ、状況を的確に捉えながら、納税者の皆様方から信頼される税務行政の確立に努めなければならないと考えております。

つきましては、近畿税理士会和歌山支部の先生方におかれましては、税の専門家として、税務行政の良き理解者として、今後ともより一層の御理解と御支援

を賜りますようお願い申し上げます。

間もなくしますと確定申告期を迎えることとなりますが、本年も自書申告の一層の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、御支援の程よろしく願い申し上げます。

終わりに臨み、新しい年が近畿税理士会和歌山支部のますますの御発展と、会員の先生方をはじめ御家族ともどもの御健勝、御多幸の年であることを心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

## 雑 感

松本 一郎



新年明けましておめでとうございます。

先生方には意義ある新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

いよいよ二〇〇一年の幕開けです。

昨年をふりかえりますと、

1. 申告書等のOCR様式への切替え。
2. 連結納税制度の導入。
3. 電子申告制度の確立。
4. 路線価の八年連続下落。
5. IT革命の推進。

スポーツではシドニーオリンピック。等々実に多くの事柄に遭遇してまいりました。

「一年の計は元旦にあり」を耳にしてきましたが今年こそ決断の年ではないでしょうか。

論語に「故きを温めて新しきを知る」人間は意外と弱いものです。このため決断を迫られると迷うものです。この時どうするか。決断を迫られたとき、自分を支えてくれる何か欲しい。それは妻や友人であったり、信ずる神や仏であったり、千差万別と言えるでしょう。

過日のCSによる統一研修で講師先生が、IT革命に対応するには「歳だから云々」と言っている場合ではない、兎に角前進あるのみ、の言に刺激され、老眼に鞭打って走り出したいと思っている昨今です。ただし実行の程は予測できませんが!!

新年を元気で迎えた喜びを味わいつつ一日一日を大切に過したいと思います。

### 平成13年 年男・年女に当たる会員 (敬称略)

大正6年	関本 昭雄	野村 三夫	昭和16年	昭和28年	昭和40年
中嶋 源次	田中恵美子	濱野 宏	勝田 洋子	大西 省悟	岡野 良平
	津田 和夫	馬場 啓二	木野 久行	福森 美幸	坂本 忠進
昭和4年	戸上 榮吉	松本 一郎	桐本 壽之	森本 芳宣	刀祢 真大
笹尾 藤晃	中北 典夫	米田 勉	西岡 義高		名倉 健三
庄禮保次郎	野尻 啓市		古久保宗男		

# 六十八才の挑戦

野村三夫



古稀を控え記念に富士登山に挑戦した。平成九年八月多分「最初で最後」そんな思いを考えながら、数日前から準備にかかり週間天気予報に耳を傾け、いよいよ当日、運を天にまかせてツアーバスに乗った。○先生のご家族と偶然に一緒になり夜行の旅となった。それにしても「七〇才間近で何が山登りか」と笑われないか「でも一人ぐらいいても」自問自答のすえ、リュックにカメラをいれていざ富士山へ。「滝の白糸」で朝食後S字カーブを登りながら五合目で下車、小休止のあといよいよ登山開始、初めは平坦な道も少しずつ勾配が急になって歩幅もだんだん狭く、小休止時にグループの最後尾になって耐久力の限界を身をもって体験した。日もかげり、登山道を振り返ると登山者のヘッドランプが丁度高層ビルから自動車のヘッドライトを見ている様に幾重にも数珠つなぎ何百人の登山者か…あと戻りは出来ない(下山ルートは別ルート)

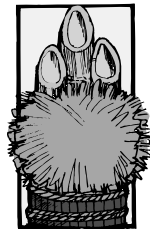
山好きの者はよく「そこに山があるから」という。たしかに山は雄大で心まで包んでくれて世間のわずらわしさから離れ、その別世界は命の洗濯にもなる。ましてや汗を流したあとの喜びは何事にもかえがたいもの

があると云われている。

青息吐息でようやく八合目に辿りつき、早速トレーに這入った夕食を済ませて一息つく間もなく就寝の準備で、午後十一時の出発まで半強制的に横になった。頭の左右は隣の足が、寝返りもできず「すし詰め」いや「巻き寿司」の状態、せんべい布団に「蚕棚」、参加者から不平不満の独り言、いつか疲れて寝息となる。案内人の起床の声でいよいよ頂上へ出発、ご来光をカメラに収めることを念願に、また、山頂に立って眼下に広がる雲海を思うと心が躍る。ところが残念無念このうえなし、山小屋を出ると雷雨になり登頂は無理とのこと、思案しながら急な勾配の山道を登ったが、風雨が下から舞上り、雷光が周囲に鳴響き、ついに登頂を断念して山小屋に避難し仮眠して早朝に下山した。河口湖で入浴、手足を伸ばさせるだけ伸ばして、ほっと一息ついた。

思い出の記念登山も自然現象にはばまれて頂上まで登ることができなかったが、あえぎあえぎ山頂をめざして気力との闘いの雰囲気だけは十二分に吸収してきた爺の挑戦記である。

○先生、皆様も元気に帰和されたことを追記として。



# 60才で思うこと

西岡義高



本年は巳年、この世に生を受けて60年、早い様で遅い様で、一つの区切りとしてここまで来たかと云う、ほっとした気持と、金さん銀さんの100才の言葉ではないけれど、嬉しい様な悲しい様な複雑な気持であ

る。

さて60才だと云って感慨に更けている暇はない。現在の社会、経済の変化のスピードは加速度がつき、特にIT関連の進化発展は、私の予想を遥かに越えている。IT関連の機器等は、法定耐用年数の半分程度2~3年で陳腐化するスピードである。私は職業会計人としてこのIT革命は危機であると同時に、反対に大きなビジネスチャンスであると考えている。私は税理士でなく職業会計人と表現するのは、我々の職域は、税務会計の範囲だけではなく、もっと広い分野ま





# 格闘技に関する思い出

岡野良平



驚くほど重く感じる面・胴の防具とボクシンググローブを着けた私は、軽くステップを踏みながら始まりの合図を待っていた。「これは早めに決めないと、すぐにバテしてしまうな・・・」特に、初めて着用する面は視界はそれほど悪くないものの違和感がある。

皆が就職について不安な気持ちになり始める大学4年の春、私は友人が主将を務める拳法部やボクシング部に頻繁に出入りするようになっていた(そんな呑気なところは現在も変わっていない)。

向かい合った相手は部の副主将であり三段の猛者である。対する私はその数ヶ月前に初段になったばかりではあるが、同好会規模とはいえ流派の和歌山支部を任されている立場であり、負けられない。

私が所属する空手の流派「芦原会館」は、劇画「空手バカ一代」で準主役の扱いを受け大活躍をした“ケンカ十段”芦原英幸先生が創設した団体で、実戦的な稽古で有名であった。

私は、大学進学後クラブ活動に参加していなかった(完全縦型社会の体育会系には全く興味がなかった)ことによる日頃の運動不足を痛感していたため、2年生になった春に、どうせやるならハードなところと思いい、入門した。

もともと身体が柔らかかった私はどうやらこのスポーツに向いていたようで、格闘技未経験者としては異例の2年足らず4回の審査で黒帯を締めることができた。また、茶帯に昇級した際、芦原館長の目にとまり、直々に和歌山への同好会支部の開設を命ぜられたのである。しかし和歌山で自分が指導することは、私個人にとっては損なことであった。素人か他流派の経験しかない者に私たちの流派独特の動きを教え込むばかりで、自分の練習時間が満足にとれず、組手の際にも蹴りを当てないように途中で止めることにばかり気をつけるようになってしまったのだ。大阪に一道場生として通っていた頃は、自分よりも圧倒的に実力のある先輩

方に思いっきり立ち向かっていけたし、同輩たちとも切磋琢磨しあって技を磨いていたのだが、途中で成長がストップしてしまった状態になってしまったのである。

そのような状況に焦りと危機感を抱いていた私に、友人が「うちの部に遊びに来いよ。もう上級生もいないから遠慮しなくても良いし、他の部員たちにも刺激になる。」と言ってくれたのだ。

喜び勇んで出掛けた合同稽古の初日に私を待っていたものは、お互いの実力確認という意味の冒頭に述べた副主将とのスパーリングだった。

勝負自体はあつけなく終わった。「始め」の合図とともに踏み込みながら顔面を狙って打ち込んできた相手の右ストレートを受け流してサイドポジションをとった私は、ガラあきの下半身へ左ローキックを叩き込んだ。左足首に残る感触は会心の一撃であったことを告げている。相手はその場にしゃがみこんだ。「良かった。勝てた」とホッとしている私に、審判を務めていた友人が困り顔で語りかけてきた。

「あのさあ、ローキックは反則なんだけど・・・」

結果的には私の反則負けであった。そしてそれを聞いた瞬間、何故相手が下半身への攻撃に対する防御に無関心であったのかが理解できた。

その後も彼らとは交流を続け(副主将には1週間ほど“まだ足が痛い”と笑顔でイヤミを言われたが)、私は得意とする蹴り技のバリエーションを彼らに教え、彼らからはグラウンドに持ち込んだ際の関節技や絞め技を教えてもらった。また、ボクシング部の友人たちからはパンチの打ち方から合理的なその練習体系を学ばしてもらった。

気がつけばあの頃から、もう14年の歳月が過ぎた。

柔らかかった身体も随分と硬くなり、腰や膝の慢性的な痛みに加え交通事故による怪我も完全には治らず、すっかりボンコツになってしまった自分が情けない。

しかし、空手を通じて学んだことや友人たちを財産として21世紀も頑張っけてゆきたいと思う。



# 支部ホームページのご案内

当支部では本年度よりホームページを開設しております。

アドレス

http://www2.kinzei.or.jp/~wakayama/

支部会員のページ

ID wakayama

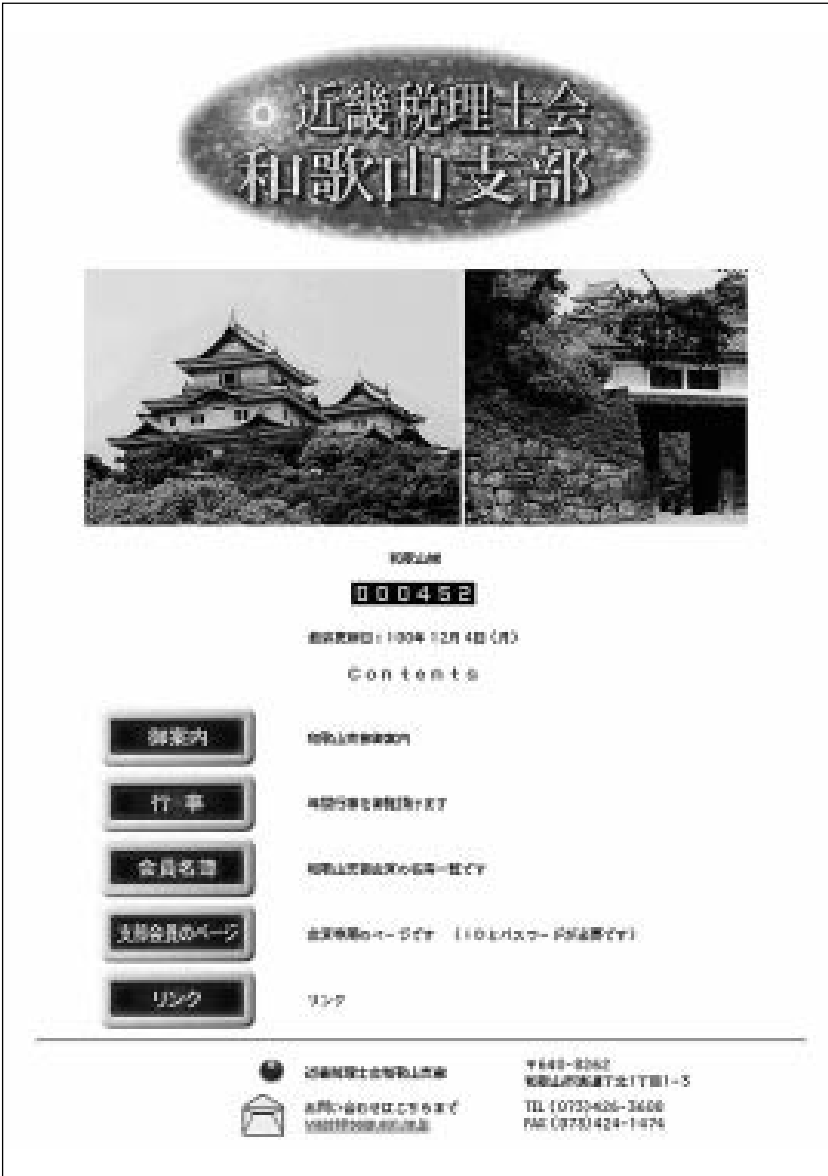
パスワード member

メールアドレス

wazei@sage.ocn.ne.jp

当ホームページについての皆様からのご意見、ご要望をお待ちしております。

なお、当「五十五万石」も支部会員のページに掲載しております。



## 行 事 報 告



平成12年10月31日  
第1回資産税研究会（アバローム紀の国）



平成12年12月8日  
支部年末研修会（華月殿）

## 新入会員等ご紹介 (敬称略)

### 入 会



安部 満子

平成12年8月24日

(事務所)

和歌山市西釘貫丁3-13-1  
グランドハイツ本町405

### 転 入



山田 穰

平成12年9月20日

(事務所)

和歌山市中之島2269



川口 美由紀

平成12年9月20日

(事務所)

和歌山市吹上4-4-3



若原 恭平

平成12年11月29日

(事務所)

和歌山市東長町5-37  
大江電化センタービル内

## ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 編 集 後 記 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、和歌山においては、木村良樹県知事の誕生(当時最年少)、日本で沖縄サミットが開催され、記念として、二千年札が発行されました。また、三宅島の噴火、度重なる森首相の失言による政治の混乱等がありました。世界に目を転じれば、シドニーオリンピック開催(女子マラソンで高橋尚子さん、女子柔道ではヤワラちゃんが金メダルを取りました)、南北朝鮮首脳歴史的対談、なかなか当選者の確定しなかったアメリカ大統領選挙などがありました。

さて、21世紀最初の今年は、どのような一年になるのでしょうか。今年が会員皆様にとって幸多き年でありますよう祈念いたします。

広報委員 山 木村 石倉

